

Investors' Guide 2015
2015年3月期

Making Steady Progress

次なる成長のステージへ。



株式会社アスラポート・ダイニング
証券コード:3069



グローバルな「食のバリューチェーン構築」を目指して進化を続けます。

事業環境と成長ステージ

国内景気は緩やかな回復基調にあるものの、当業界においては円安による原材料価格の上昇や人材不足など引き続き厳しい経営環境が続いています。消費者嗜好の多様化、少子高齢化から市場は縮小傾向にあり、競争環境は一段と激しさを増すなか、業態別ではファストフード業態や居酒屋業態の一部落ち込みが影響した一方で、焼き肉業態は引き続き好調を維持し、ファミリーレストランや高価格帯への客足も伸びております。こうした環境は当社グループにとって成長の大きな機会でもあり、既存事業の強化や戦略的M&Aを通じて日々進化を重ね、柔軟かつ強靱な企業へと成長すべく取り組んでおります。

当社グループでは「食のバリューチェーンを構築する」という目標を掲げ、「既存ブランドの競争力強化と成長」、「ブランド・ポートフォリオの多様化」、「海外市場への進出」、「食品生産事業と六次産業化」の4つの戦略を推進してまいりました。当期もさらなるバリューチェーンの構築と拡充を進め、昼業態の充実、海外事業の拡大に取り組み、次なる成長ステージへのステップアップを着実に目指しました。

当期業績と経営戦略

当期(2014年4月～2015年3月)業績につきましては、連結売上高11,167百万円(前年同期比18.8%増)、連結営業利益700百万円(同24.5%増)、連結経常利益は622百万円(同35.1%増)、連結当期純利益につきましては388百万円(同29.4%増)と3期連続で最高益を更新いたしました。

増収増益の要因としては、前期に子会社化した(株)弘乳舎が通期で寄与した他、昨年10月に子会社化したレゾナンスダイニング(株)も収益貢献しました。また既存ブランドにおいても、焼肉業態が好調に推移したことに加え居酒屋業態の収益改善により利益率の向上につながりました。

「牛角」は高単価・高品質メニュー投入による客単価向上、新たにフランチャイズ9店舗出店により全店売上高前年同期比107.6%を達成するなど業績を牽引しました。「とりでん」では季節メニュー投入によるリピーター増加、映画とのタイアップなどで新規顧客を獲得。「とり鉄」ではメニューの絞り込みおよび食材管理の効率化といった見直しを進める一方で、急増する外国人観光客の取り込みに向けた多言語対応のメニューを準備

するなど、さらなる成長のための基盤整備に取り組んでおります。

またレゾナンスダイニング(株)の「どり亭」も好調に推移し業績に寄与しました。当社グループが本部を務める店舗数の推移は、レゾナンスダイニング(株)の店舗が新たに加わった結果、当期末においては直営・FC合わせて426店舗と、前期末比81店舗の大幅な増加を達成しております。

新規事業のトピックスとしては、米Yum! Brandsグループのメキシカン・ファストフード「タコベル」1号店を4月に渋谷にオープンしました。タコベルは同グループのTaco Bell Corpが世界26カ国で約6,500店舗を展開する世界的人気ブランドであります。当社は本出店を通じてファストフード市場への本格的な進出を果たすことができました。

新規にセグメントに加わった生産・食品製造事業では、弘乳舎が加工乳製品の製造・販売に加え、新たに事業化した脱脂濃縮乳等の液状乳製品の販売チャネル拡大やグループ運営の外食店舗向けを含むアイスクリーム、デザートへの伸びにより売上が堅調に推移しました。さらに今年4月には、生クリームやサワーcreamの製造・販売で定評ある中沢フーズ(株)と業務提携を行い、その子会社である茨城乳業(株)を取得、食品生産事業の拡大を目指します。

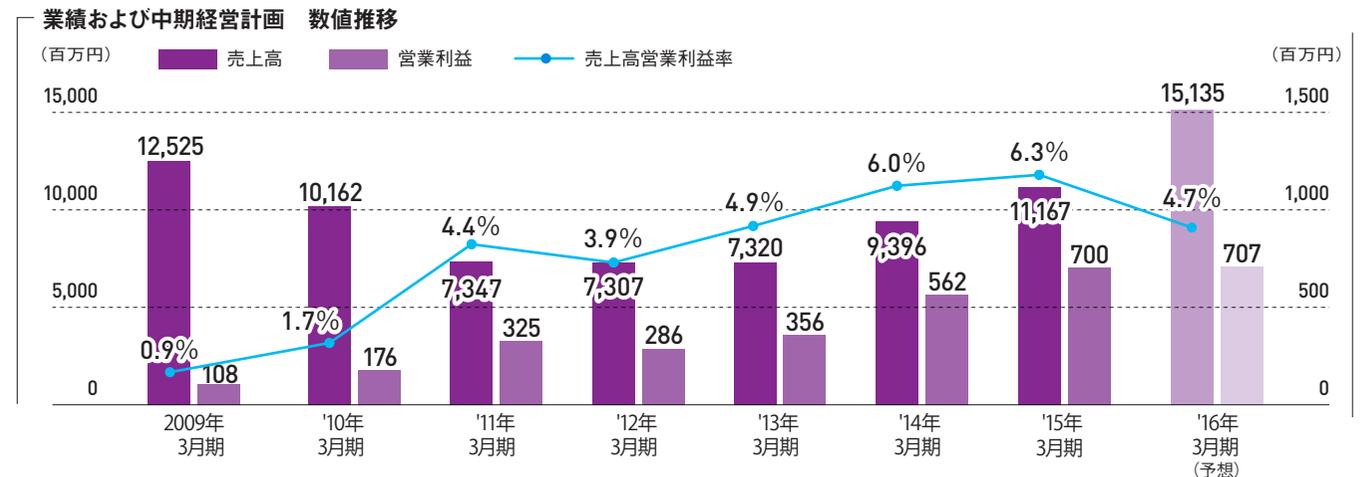
また関西を中心に店舗展開する洋菓子製造販売の「GOKOKU」は、首都圏での催事販売に注力し、全国的なブランド認知の獲得に取り組みました。海外事業としては英国にて高級和食材の卸売およびスィーパーやレストランを運営するT&S社、S.K.Y社、Atari-Ya社の取得や、海外で急成長しているラーメン業界大手のワイエスフード(株)、札幌ラーメンで知られる(株)どさんとの戦略的提携による当社グループのグローバル展開も本格的にスタートしました。

尚、当期は2017年3月期までの中期経営計画業績目標値の達成がいよいよ視野に入ってきました。現在、新たな中期経営計画を策定中であり、今期中にも発表させていただきたいと考えております。

株主の皆様への利益還元につきましては、現段階では成長に向けた投資のために内部留保に充当させていただくべく無配とさせていただきます。株主・投資家の皆様におかれましては、引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2015年8月

代表取締役社長
檜垣 周作



※当誌に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

PAGE 02 ブランド／グループ企業一覧 At a Glance

外 食									
社 名	株式会社プライム・リンク				株式会社とり鉄		レゾナンスダイニング株式会社		株式会社 アスラポート・ダイニング
会社概要	資本金 300百万円 1995年設立、2001年ナスダック・ジャパン市場(現JASDAQ市場)上場、2007年株式移転し株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社となる。主にフランチャイズで焼肉、居酒屋等を運営。				資本金 100百万円 2007年に株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社に。首都圏を中心に鶏料理居酒屋「とり鉄」を運営。		資本金 20百万円 2014年に株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社に。関西を中心に「薩摩郷土料理ちどり亭」「浪花屋 鳥造」などの焼鳥居酒屋を運営。		資本金 965百万円 米国Taco Bell社とフランチャイズ契約を締結。
ブランド									
業態	焼肉	居酒屋	居酒屋	とんかつ、他	居酒屋	居酒屋	居酒屋	居酒屋	メキシカン・ファストフード
特徴	「おいしい焼肉を安く」をコンセプトとする国内最大規模を誇る焼肉チェーンを、国内最大のエリア本部として、主に東北、北陸、北関東、中京、関西、九州地区でFC運営しています。				郊外エリアを中心に展開する釜飯と串焼が特徴の居酒屋です。種類豊富な釜飯と串焼などが、地域のファミリー層や若い世代のお客様を中心に、幅広く支持をいただいています。		日本各地のご当地料理を「おだいどこ」風にアレンジして提供しています。地域の伝統や生産者との交流を大切に、日本全国のおいしい料理とお酒を提供しています。		ミルフィーユ状のとんかつが特徴のとんかつレストラン「キムカツ」など他社ブランドの店舗を「アライアンス事業」として直営で運営しています。
店舗数計	177	68	16	5	61	4	59	30	1
直営	5	4	4	5*	9	2	3	2	1
フランチャイズ	172	64	12	0	52	2	56	28*	0

外 食			流 通		加工・製造		
社 名	株式会社フードスタンドインターナショナル	Sushi Bar Atari-Ya Limited	T&S Enterprises Limited	S.K.Y. Enterprise UK Limited	株式会社弘乳舎	茨城乳業株式会社	
会社概要	資本金 5百万円 2011年設立。同年にたこ焼事業、2013年に洋菓子の製造販売事業を譲受け、たこ焼業態は主にFC、洋菓子事業は直営で運営。	資本金 1,000英ポンド 2015年に株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社に。寿司店を展開する英国法人。	資本金 1,000英ポンド 2015年に株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社に。水産加工卸の英国法人。	資本金 100英ポンド 2015年に株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社に。日本食材中心に総合食品卸を展開する英国法人。	資本金 167.9百万円 2013年に連結子会社化。熊本県の乳製品の製造、加工メーカー。	資本金 30百万円 2015年に株式会社アスラポート・ダイニングの連結子会社に。茨城県石岡市で牛乳、乳製品の製造・販売を展開。	
ブランド							
業態	たこ焼	洋菓子製造・販売	加工・卸	流通・卸	乳製品製造・加工	乳製品製造・販売	
特徴	たこ焼の起源といわれる小麦粉にしょうゆをかけて焼く「ちよば焼き」を継承した「しょうゆ味」と「山芋ペース」が特徴の、元祖大玉たこ焼チェーンです。	関西を中心に展開しているロールケーキや、バームクーヘン、チーズケーキなどのスイーツブランドです。	ロンドンを中心に高品質な食材と高い技術で本格的な寿司を提供しています。	高い処理技術と鮮度が特徴の業務用水産加工卸です。イギリス国内の日本食レストランや高級ホテルなどに幅広い販売チャンネルを持っています。	日本食材中心の総合食品卸。イギリスおよびドイツのデュッセルドルフやパリにも販売網を持っています。	生乳の需給ギャップによって発生する「余剰乳」の加工受託と、乳製品の製造販売を手掛けている。主要な製品はバター、脱脂粉乳、デザート類などです。	主にコンシューマー向けの牛乳・生クリーム・ヨーグルト、またプリンなどのデザート類を製造、販売しています。
店舗数計	5	6	-	-	2 (工場直営カフェ)	0	
直営	1	6	-	-	2	0	
フランチャイズ	4	0	-	-	-	0	
トータル							
438							
50* 390*							

1. 2015年6月末現在。2. * 浪花屋鳥造のうち2店舗は(株)プライム・リンクがフランチャイズとして運営しているため、直営でもカウントしています。

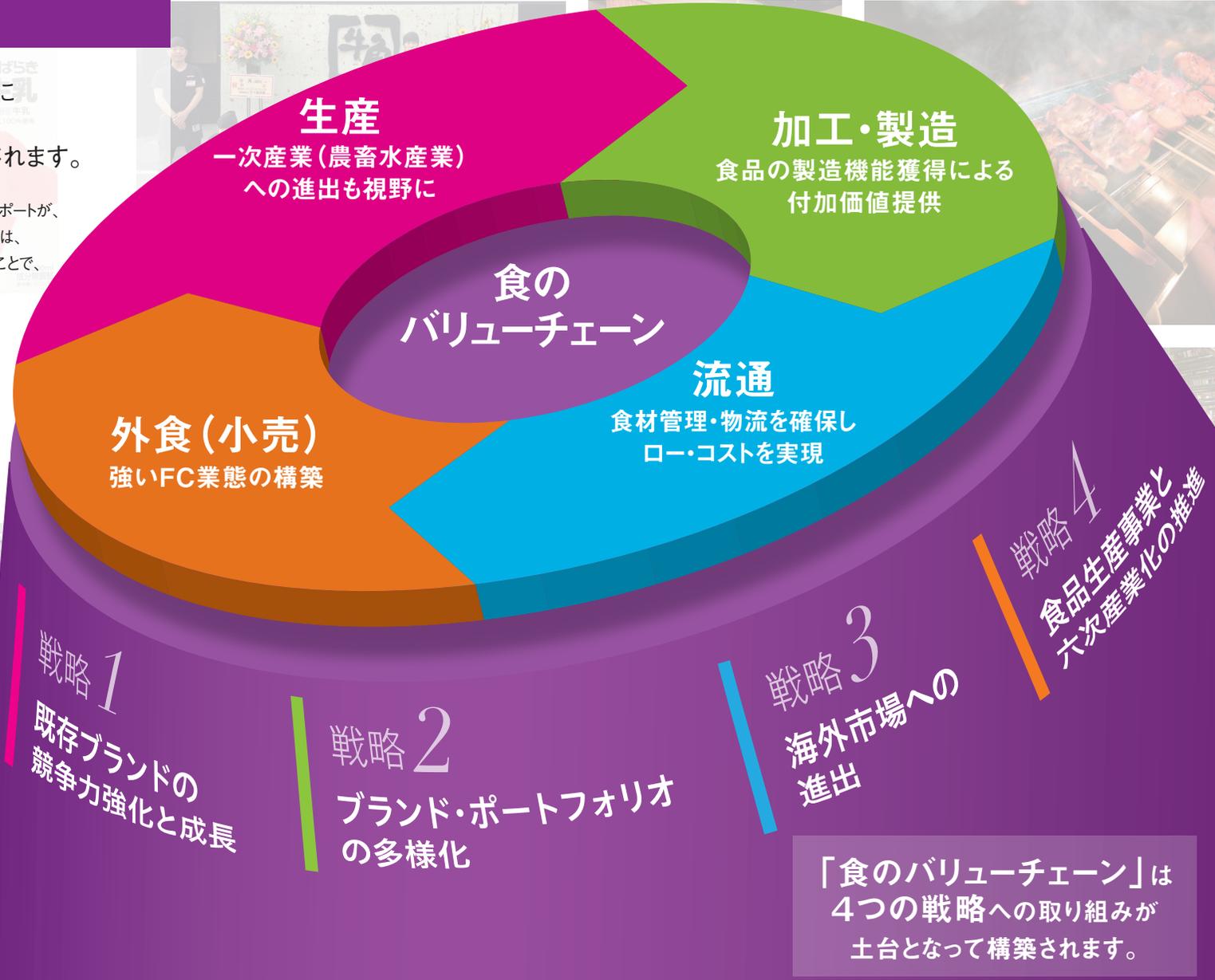
さらなるバリューチェーンの構築と拡充へ

基本方針は、食の川上から川下まで多層的に貫く「食のバリューチェーン」。
これまで培ってきた食のオーガナイザーとしての強みを活かす、持続的成長戦略です。

食のバリューチェーン

川下(外食・販売)における実績を土台に上流へと遡上していくしくみであり、4つの戦略が歯車となって牽引し構築されます。

外食産業のフランチャイズ運営を起点に成長を続けるアスラポートが、2013年から基本方針として掲げる「食のバリューチェーン」とは、生産・加工・製造、流通・外食(小売)までトータルに網羅することで、外食産業の枠にとどまらない多層的な付加価値を生み出し、収益向上を図る新たなビジネスモデルです。



4つの戦略が連動し「食のバリューチェーン構築」を加速

当期は生産・加工事業から流通、外食事業までを網羅する4つの戦略にさらに取り組むことで、グループ方針として掲げる「食のバリューチェーン構築」を加速しています。

1 既存ブランドの競争力強化と成長

メニュー設定から店舗デザインまで市場ニーズを反映した改善強化へ

- ・品質の向上
- ・食材減価の低減
- ・市場や立地、ニーズの変化に応じた業態モデル
- ・お客様満足度の向上
- ・積極的な出店の実施

- 焼き鳥業態のレゾナンスダイニング(株)がグループに加わったことでブランドが拡大、グループ店舗総数は426店舗となりました。「牛角」では積極的な出店を行いFC9店舗を新たに開店、また高価格帯メニュー導入で客単価引き上げを狙い通期の既存店売上は前期比101.7%と堅調に維持しました。
- 外食業界におけるバブ・居酒屋の売り上げが低迷するなか、グループの居酒屋業態の収益力改善と強化に注力しました。メニュー数の絞り込みや食材管理の効率化を図る一方、季節メニュー投入でリピーター獲得に動きました。またレゾナンスダイニングの「ちどり亭」により焼き鳥業態が強化されました。

▶P.5参照

2 ブランド・ポートフォリオの多様化

多様化するライフスタイルと食のニーズに対応し、ブランド増大へ

- ・居酒屋、焼き肉など既存の夜業態に加え、ファストフード、洋菓子、ラーメンなど昼業態への展開
- ・他社ブランドのフランチャイズ本部構築及び展開支援

- 米Yum!Brandsグループのブランド「タコベル」を展開するTaco Bell Corpとフランチャイズ契約を締結し、ファストフード市場へ本格的進出を果たしました。▶P.5参照
- ワイエスフード(株)との資本業務提携による海外でのラーメン店出店準備や、ラーメン業界の老舗ブランド(株)どさん子との業務提携でラーメン業態への取り組みを進めています。▶P.5参照

3 海外市場への進出

潜在力の大きな海外市場需要を獲得へ

- ・日本食人気が高まるアジア、欧米に向けた店舗出店、物流拠点の創出
- ・海外における「和食材」のバリューチェーンの構築

- 英国で高級和食材の水産加工卸や和食レストラン、スシ・バーを運営するT&S社、S.K.Y社、Atari-Ya社を子会社化し、欧州における高品質な日本食材の「バリューチェーン」を獲得。外食・卸・物流を含む輸出入など日本食ビジネス展開の基盤を構築しました。▶P.5参照
- 東南アジアを中心に広がるたこ焼人気を踏まえ、たこ焼業態のブランド「たこばやし」がタイに1号店をFC出店しました。年内にはタイ国内に5店舗、2016年末には10店舗の展開を目指します。

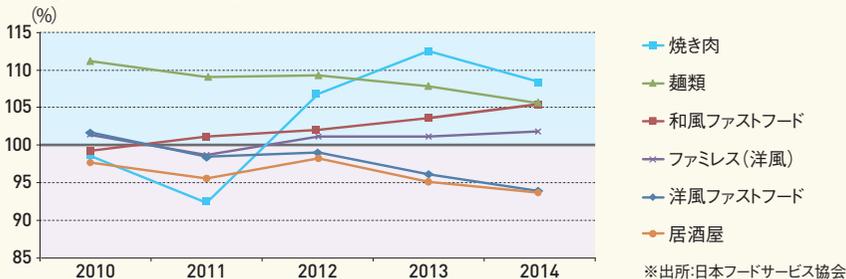
4 食品生産事業と六次産業化の推進

新たな価値を生み出すビジネスモデルの構築へ

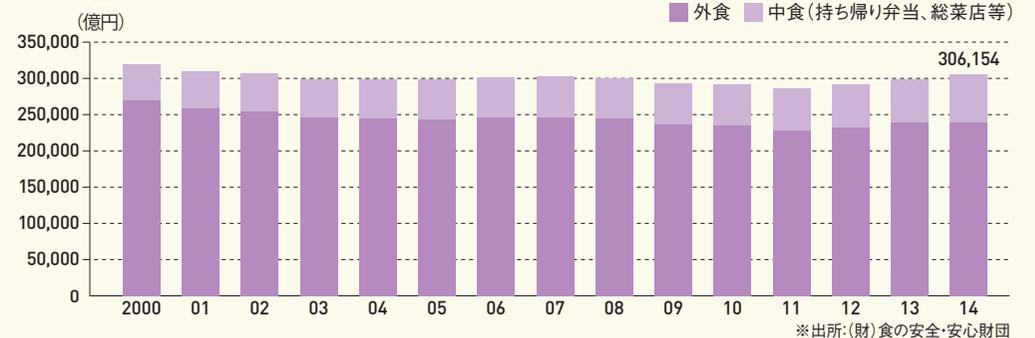
- ・自社ブランド品の開発・販売強化
- ・グループ運営外食業態への商品使用拡大
- ・他事業者への外販拡大
- ・コンシューマー向け商品の開発・販売強化

- 弘乳舎は余剰乳加工受注が堅調で、グループ外食店舗でのアイスクリームやデザート製造販売開始による販路拡大も見込まれます。またケーキなどの原料となる脱脂濃縮乳(液状乳製品)も好調です。
- 生クリームやサワーcreamの製造で定評ある中沢フーズ(株)と業務提携し、その子会社茨城乳業(株)の株式を取得することで食品生産事業の強化を図りました。茨城乳業はOEM受託を含む幅広い乳製品製造に強みを持ち、ヨーグルトやプリンなど商品ラインナップの強化を目指します。

■外食業態別 前年比成長率



■外食産業市場規模



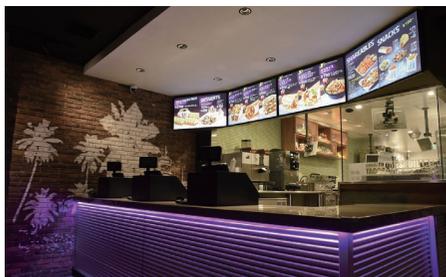
タコベル日本1号店をオープン



2015年2月、メキシカン・ファストフードの世界的ブランドである「タコベル(Taco Bell)を展開する米国Yum! BrandsグループのTaco Bell Corpとフランチャイズ契約を締結。4月に第1号店を東京・渋谷にオープンしました。タコベルは米国を中心に世界26カ国で約6,500店舗を展開する世界最大のメキシカン・ファストフードチェーンです。

米国では圧倒的な知名度を誇るため、日本国内にも根強いファンが多く、オープン前から注目されていたタコベル1号店は非常に好評で売り上げも順調に推移しています。

日本のファストフード市場に新たなカテゴリを提供することにより、選択の幅を広げ、大きな需要を創出していけると考えています。



新たに乳業メーカーの茨城乳業(株)を子会社化



新たに子会社化した茨城乳業(株)は、コンシューマー向けの牛乳、ヨーグルト、プリン等の乳製品製造に加え、カフェチェーン向け業務用生クリームや加工乳の製造を行い、OEM受託を含む幅広い乳製品製造に強みを持っています。親会社で30%の株式を保有する中沢フーズとの業務提携も同時に行い、弘乳舎とともに乳製品販売、流通、商品開発など幅広い分野での相乗効果を高めていきます。



ラーメンの老舗と協業で海外出店へ



2015年3月、筑豊ラーメンのブランド「山小屋」「ばさらか」「一康流」などを国内外で160店舗運営するワイエスフード(株)と資本業務提携を行いました。同社がアジア中心の海外事業展開で培った経験やノウハウと、当社の持つ欧州、北米ネットワークを活かし、新たなエリアへのラーメン業態の出店を準備しています。また4月には(株)どさん子と業務提携を行いました。同社はすでにパリやロサンゼルスにラーメン「どさん子」を出店するなど積極的な海外進出をしています。双方の強みを活かしたグローバルな日本食ビジネスを推進する端緒として、同月、「とり鉄」とのコラボレーション店舗をオーストラリアに出店しました。

英国に新たな拠点、日本食ビジネスの海外展開に弾み



2015年5月に英国法人のT&S社、S.K.Y社、Atari-Ya社の株式を取得し子会社化しました。同3社はロンドンにおいて寿司店など日本料理店の運営、水産物の加工・卸、食材の輸出入を長年手がけており、英国を中心とした欧州市場において高級和食材の加工・販売に強みを持っています。これら3社の事業基盤や欧州での物流ネットワークを活かし、当社グループの目指す日本食ビジネスのロンドン拠点として海外展開に弾みをつけてまいります。



レゾナンスダイニング(株) 子会社化で新たなブランド獲得



九州スタイルの焼き鳥業態「ちどり亭」「浪花屋鳥造」を展開するレゾナンスダイニング(株)は関西を中心に全国で89店舗を直営およびFC展開しています。同社は当社グループの(株)プライム・リンクと業務提携し、「浪花屋鳥造」の関東での一部店舗運営を担ってきましたが、外食事業の競争力向上を図り、またブランド・ポートフォリオを強化するため2014年10月に同社を100%子会社化しました。好調な「ちどり亭」がグループ全体の増収に寄与しています。



PAGE 06 経営成果と財務分析 Management's Discussion & Analysis

当連結会計年度における当社グループを取り巻く経営環境は、景気は概ね緩やかな回復基調で推移したものの、外食産業では円安等による原材料価格の上昇、人材不足による人件費の上昇など、引き続き厳しい経営環境が続きました。

このような中で、当社グループは「食のバリューチェーンを構築する」という目標を掲げ、引き続き「既存ブランドの競争力強化と成長」、「ブランド・ポートフォリオの多様化」、「海外市場への進出」、「食品生産事業と六次産業化」の各課題に取り組んでまいりました。

外食事業では「牛角」が堅調な成長を維持する一方で、居酒屋業態の収益力改善・強化を推し進めるとともに、9月には九州スタイルの焼き鳥業態「ちどり亭」「浪花屋鳥造」を展開するレゾナンスダイニング株式会社の株式を取得し、子会社化しました。生産事業では、株式会社弘乳舎の商品開発力および販路の強化に取り組まれました。海外市場についても、欧州における高級和食材の加工・販売に強みを持つ英国法人三社の株式を取得するなど、積極的な展開を図っています。

売上高

売上高は11,167百万円(前年同期比18.8%増)となりました。2013年9月に子会社化した株式会社弘乳舎が通年で売上に寄与したこと、2014年9月に子会社化したレゾナンスダイニングの売上が寄与したことなどにより、増収となりました。

牛角は、ファミリー層への取り組みの強化、高付加価値メニューの導入による客単価の向上、フランチャイズ9店舗の新規出店などにより堅調な成長を維持しました。また、乳製品メーカーの株式会社弘乳舎の売上也堅調に推移しています。

営業利益

営業利益は700百万円(同24.5%増)となりました。売上は18.8%の増収となったものの、売上原価は7,151百万円(同27.8%増)となり、売上総利益は4,016百万円(同5.7%増)となりました。一方で、販管費及び一般管理費は、直営店をフランチャイズ

加盟店に譲渡したこと、また販管費率の低い弘乳舎の通期寄与により、比率が減少しました。

経常利益・当期純利益

経常利益は、資金調達に伴う支払利息の増加などから営業費用が増加したものの、営業利益が増加したため622百万円(同35.1%増)となりました。当期純利益は、店舗閉鎖に伴う特別損失があったものの、役員退職慰労引当金の戻入及び受取補償金を特別利益として計上したことにより、388百万円(同29.4%増)となりました。

セグメントの状況

店舗運営

直営店運営の業績で構成されています。

「ちどり亭」3店舗、「浪花屋鳥造」2店舗、その他1店舗が加わった一方で、「とり鉄」はフランチャイズ

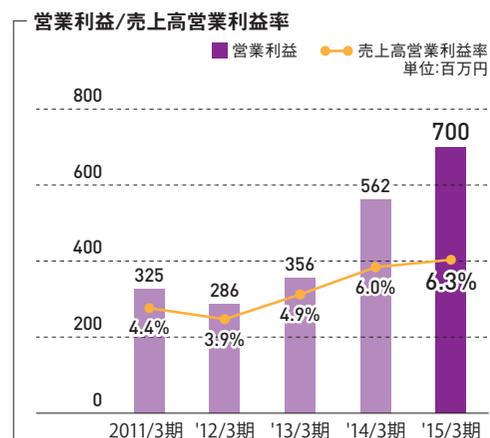
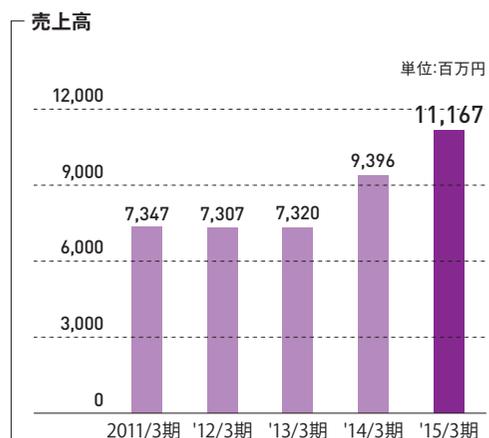
加盟店への譲渡等により4店舗が減少し、「おだいどこ」、「たこばやし」他計6店舗を閉店しました。その結果、当連結会計年度における当社グループの直営店舗数は44店舗となり、前年同期に比べ4店舗減少しました。

直営店舗数の減少から、店舗運営の売上高は2,771百万円(前年同期比8.3%減)となりましたが、不採算店舗の閉鎖などにより収益性が改善し、営業利益は180百万円(同57.8%増)となりました。

フランチャイズ

ロイヤリティ収入、フランチャイズ加盟店向けの食材売上などから構成されています。

レゾナンスダイニング株式会社の子会社化により、「ちどり亭」56店舗、「浪花屋鳥造」28店舗が加わり、また「牛角」で9店舗、「とり鉄」で2店舗、その他ブランドで1店舗が増加した一方、「とりでん」、「おだいどこ」、「たこばやし」他で計9店舗が減少しました。その結果、当連結会計年度における当社グループのフランチャイズ店舗数は384店舗となり、前年同期に比べ、87店舗の増加となりました。



※当社は、2012年10月1日付2013年3月期で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、2010年3月期(第4期)の期首に当該株式分割が行われたと仮定してEPSを算定しております。

PAGE 07 経営成果と財務分析 Management's Discussion & Analysis

フランチャイズの売上高は3,988百万円(同17.9%増)、営業利益は1,497百万円(同31.0%増)となりました。

※「浪花屋鳥造」のうち2店舗は、株式会社プライム・リンクがフランチャイジーとして直営運営しており、上記「店舗運営セグメント」でも店舗数に算入しています。

〔食品〕

株式会社弘乳舎において、新規事業として位置付けている液状乳製品の既存取引先への販売量増加や販売チャネル拡大に加え、グループ内需要の獲得などによるアイスクリームやデザートを受託製造の伸長が収益に寄与し、食品の売上高は3,046百万円(同60.0%増)、営業利益は144百万円(同50.7%増)となりました。

〔その他〕

転貸における売上、加盟企業向け販促物の売上、通販や催事における商品売上、食材の外部販売売上

等により、売上高は1,360百万円(同25.3%増)、営業利益は209百万円(同57.6%増)となりました。

▶ 財政状態に関する分析

資産、負債及び純資産の状況に関する分析

当連結会計年度末における総資産は11,231百万円となり、前連結会計年度末に比較し、1,503百万円増加しました。これは主に、当連結会計年度において、株式取得により新たに子会社化したレゾナンスダイニング株式会社を連結の範囲に含めたことにより、総資産が550百万円及びのれんが364百万円計上されたこと、また、現金及び預金が増加したことによるものです。

負債は8,513百万円となり、前連結会計年度末と比べ672百万円増加しました。これは主に、レゾナンスダイニング株式会社を連結の範囲に含めたことにより、負債が355百万円計上されたことによるものです。

純資産については、純利益の計上及び新株予約権の行使による株式の発行により、前連結会計年度末と比べ831百万円増加し、2,717百万円となっています。

この結果、自己資本比率は前期末から5.1ポイント上昇し、23.1%となりました。なお、自己資本当期純利益率(ROE)は、1.3ポイント下落し、17.9%となりました。

▶ キャッシュ・フローの状況に関する分析

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ698百万円増加し3,328百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は、次のとおりとなりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において営業活動の結果得られた

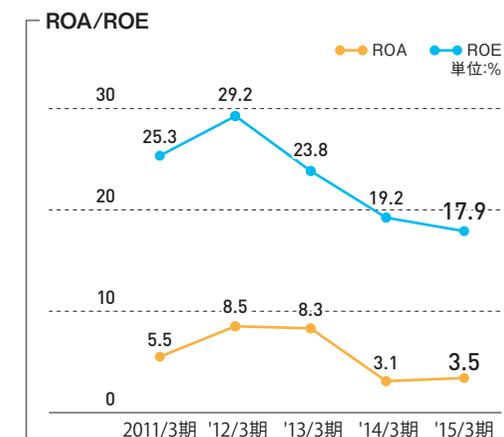
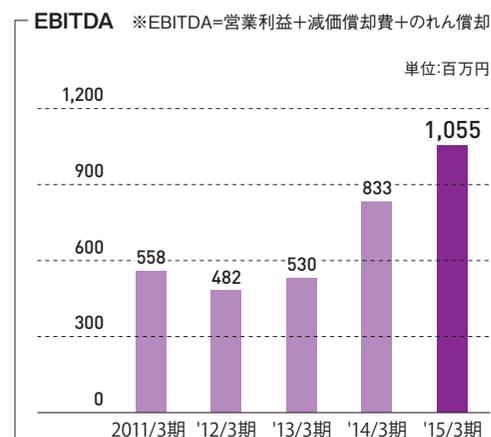
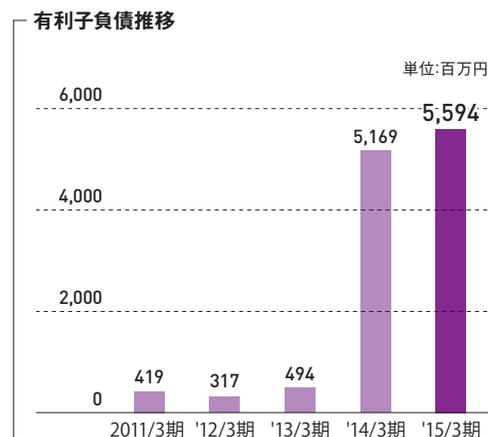
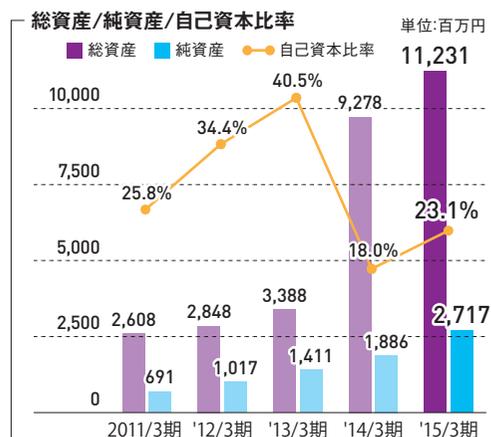
資金は、796百万円となりました。これは、主に店舗営業による収入やフランチャイズ事業におけるロイヤリティ収入などに加え前受金の減少98百万円などによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において投資活動の結果使用した資金は、883百万円となりました。これは、主にレゾナンスダイニング株式会社の株式取得のための支出310百万円及び持分法適用会社に対する関係会社株式取得のための支出300百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において財務活動の結果得られた資金は、788百万円となりました。これは、主に長期借入金等借入債務の増加によるものです。



PAGE 08 要約財務諸表

連結貸借対照表		(千円)				
	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	
現金及び預金	237,046	510,800	659,597	2,650,084	3,326,845	
受取手形及び売掛金	570,509	616,922	634,974	1,078,951	1,187,470	
棚卸資産	23,855	34,236	71,549	450,442	463,117	
貸倒引当金	△41,947	△28,361	△53,231	△14,477	△17,213	
その他	229,315	230,884	225,431	774,307	954,434	
流動資産	1,018,778	1,364,481	1,538,320	4,939,307	5,914,653	
有形固定資産	400,157	334,507	254,755	2,139,970	2,107,131	
無形固定資産	363,419	363,470	293,121	1,659,310	1,855,083	
投資その他の資産	826,404	785,775	1,302,751	989,775	1,354,919	
固定資産	1,589,981	1,483,754	1,850,627	4,789,055	5,317,134	
資産合計	2,608,760	2,848,235	3,388,948	9,728,362	11,231,788	
支払手形及び買掛金	348,244	393,799	391,862	649,354	813,528	
短期借入金	60,000	153,950	394,130	608,600	52,470	
1年以内返済予定の長期借入金	80,000	47,500	—	982,323	1,596,978	
その他	520,768	574,438	513,908	1,032,818	1,183,272	
流動負債	1,009,012	1,169,687	1,299,900	3,273,095	3,646,248	
社債	116,000	—	70,000	122,500	193,500	
新株予約権付社債	—	—	—	75,000	—	
長期借入金	47,500	—	—	3,306,084	3,570,899	
その他	744,274	660,648	607,163	1,065,191	1,103,280	
固定負債	907,774	660,648	677,163	4,568,775	4,867,679	
負債合計	1,916,787	1,830,335	1,977,063	7,841,870	8,513,927	
株主資本	673,995	980,362	1,372,829	1,754,882	2,592,603	
資本金	612,174	644,821	700,888	741,591	965,995	
資本剰余金	570,471	603,118	659,185	699,888	924,292	
利益剰余金	△507,222	△266,148	14,183	314,831	703,743	
自己株式	△1,428	△1,428	△1,428	△1,428	△1,428	
その他包括利益累計額合計	△63	△333	△477	846	3,390	
新株予約権	18,040	37,871	39,532	45,741	23,833	
少数株主持分	—	—	—	85,021	98,034	
純資産合計	691,972	1,017,900	1,411,884	1,886,491	2,717,860	
負債純資産合計	2,608,760	2,848,235	3,388,948	9,728,362	11,231,788	

連結損益計算書及び連結包括利益計算書		(千円)				
	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	
売上高	7,347,994	7,307,004	7,320,288	9,396,404	11,167,069	
売上原価	3,963,421	3,905,186	3,887,496	5,597,148	7,150,686	
売上総利益	3,384,573	3,401,818	3,432,791	3,799,256	4,016,382	
販売費及び一般管理費	3,058,703	3,115,621	3,076,154	3,236,574	3,315,770	
営業利益	325,869	286,197	356,637	562,682	700,612	
営業外収益	10,254	13,952	42,412	34,540	41,078	
営業外費用	30,845	30,019	38,592	136,265	119,051	
経常利益	305,278	270,129	360,457	460,957	622,639	
特別利益	6,017	8,736	6,219	28,364	121,354	
特別損失	127,972	29,304	22,620	54,104	66,595	
税金等調整前当期純利益	183,323	249,561	344,055	435,217	677,397	
法人税等	39,740	8,488	63,723	128,152	275,472	
少数株主利益(△損失)	—	—	—	6,417	13,012	
当期純利益	143,583	241,073	280,332	300,648	388,912	
少数株主損益調整前当期純利益	143,583	241,073	280,332	307,065	401,924	
その他の包括利益	△9	△270	△143	1,323	2,544	
包括利益	143,573	240,803	280,189	308,388	404,468	
親会社株主に係る包括利益	143,573	240,803	280,189	301,971	391,456	
少数株主に係る包括利益	—	—	—	6,417	13,012	

連結キャッシュ・フロー計算書		(千円)				
	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	
営業活動によるキャッシュ・フロー	406,020	398,943	502,088	1,168,899	796,330	
投資活動によるキャッシュ・フロー	17,986	△21,688	△585,696	△2,445,262	△883,627	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△313,275	△103,500	232,405	3,242,653	788,402	
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—	—	4,194	△2,395	
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	110,731	273,753	148,797	1,970,486	698,710	
現金及び現金同等物の期首残高	126,315	237,046	510,800	659,597	2,630,084	
現金及び現金同等物の期末残高	237,046	510,800	659,597	2,630,084	3,328,794	

主要な経営指標		(千円)				
	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	
店舗数	342	351	345	347	428	
EBITDA(百万円)	558	482	530	833	1,055	
有利子負債額(百万円)	419	317	494	5,169	5,594	
D/E レシオ(倍)	0.6	0.3	0.4	2.9	2.1	
自己資本比率(%)	25.8	34.4	40.5	18.0	23.1	
ROA(%)	5.5	8.5	8.3	3.1	3.5	
ROE(%)	25.3	29.2	23.8	19.2	17.9	
EPS(円)	8.66	14.14	15.55	16.41	20.46	
BPS(円)	39.64	56.14	75.21	94.64	128.36	

※当社は、2012年10月1日付(第7期)で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、2010年3月期(第4期)の期首に当該株式分割が行われたと仮定してEPS、BPSを算定しております。

商号	株式会社 アスラポート・ダイニング Asrapport Dining Co., Ltd.
事業設立	2007年1月12日
資本金	965百万円
上場取引所	株式会社東京証券取引所 JASDAQ
事業所	東京都港区高輪二丁目16番29号
事業内容	外食フランチャイズ本部及び店舗の運営、 食品の製造・販売
HP	http://www.asrapport-dining.com/

代表取締役社長

榎垣 周作

1999年4月 アサヒビール株式会社入社
 2001年11月 阪神酒販株式会社代表取締役社長(現任)
 2009年10月 当社代表取締役社長(現任)
 2011年6月 株式会社プライム・リンク代表取締役社長(現任)
 2013年9月 株式会社弘乳舎代表取締役(現任)
 2014年7月 当社代表取締役社長兼、経営戦略本部長兼、
 新規事業部長兼マーチャンダイジング事業部長(現任)

取締役

森下 将典 [海外戦略本部長]

1990年4月 株式会社日本長期信用銀行(現株式会社新生銀行) 入行
 2009年2月 アセットインベスターズ株式会社
 (現マーチャント・バンカース株式会社) 代表取締役社長
 2012年10月 株式会社どさん子代表取締役社長(現任)
 2013年2月 株式会社ホックウ代表取締役社長(現任)
 2015年4月 当社取締役海外戦略本部長兼経営企画室長(現任)

監査役

森本 晃一

1995年4月 豊田通商株式会社入社
 2002年10月 朝日監査法人(現有限責任あずさ監査法人) 入社
 2008年10月 吉田・森本公認会計士事務所代表パートナー(現任)
 2009年7月 誠栄監査法人代表社員(現任)
 2009年12月 当社社外取締役
 2013年6月 当社監査役(現任)

取締役

中村 敏夫 [管理本部長]

1972年2月 株式会社大林組入社
 2006年9月 阪神酒販株式会社執行役員管理部長
 2007年9月 株式会社力の源カンパニー常務取締役
 2013年6月 当社取締役管理本部長(現任)
 2013年9月 株式会社弘乳舎監査役(現任)
 2014年6月 株式会社プライム・リンク取締役(現任)

取締役

宇野 友三郎 [社外取締役]

1990年4月 大阪サニタリー金属工業協同組合理事
 1997年5月 大阪サニタリー金属工業協同組合副理事長
 2000年6月 サニタリープラント株式会社代表取締役(現任)
 2014年6月 当社社外取締役(現任)
 大阪サニタリー金属工業協同組合相談役(現任)

監査役

阿部 夏朗 [社外監査役]

1998年4月 アンダーセンコンサルティング(現アクセンチュア株式会社) 入社
 2002年8月 株式会社ワイステーブルコーポレーション入社経営企画室長
 2004年11月 夢の街創造委員会株式会社取締役副社長
 2009年4月 株式会社Y's & partners 代表取締役社長(現任)
 2009年12月 当社社外監査役(現任)

取締役

小林 剛

2006年5月 株式会社東京タスコ代表取締役社長
 2007年1月 株式会社TASCOキャピタル代表取締役社長
 プラスネット株式会社代表取締役社長
 2007年8月 株式会社とり鉄代表取締役社長(現任)
 2010年11月 レゾナンスダイニング株式会社取締役(現任)
 2013年6月 当社取締役(現任)
 株式会社プライム・リンク取締役(現任)

常勤監査役

大野 千幸 [社外監査役]

1990年2月 ソロモンブラザーズ・アジア・リミテッド入社
 1996年10月 メリリンチ日本証券株式会社入社 債券部 ディレクター
 2003年1月 UBS証券会社入社 債券部 ディレクター
 2004年5月 日興シティグループ証券株式会社入社 ローン事業部 ディレクター
 2009年8月 阪神酒販株式会社社外監査役(現任)
 2009年12月 当社社外監査役(現任)

コーポレート・ガバナンス

① 企業統治の体制の概要

当社は、持株会社として当社グループの中心に位置し、グループ全体の戦略決定、経営管理及び資本政策の決定等を行う機能を有します。これに基づき各事業会社が業務を執行するという体制をとることで、経営の決定及び管理機能と執行機能を分離し、経営責任の明確化と業務執行の迅速化、意思決定の透明性の向上及びコンプライアンスの強化を図っております。

また、当社は監査役設置会社としており、取締役会と監査役会により経営方針の決定、業務執行の管理監督及び監査を行っております。

取締役会は、取締役6名で構成され、うち1名は社外取締役が在任しております。原則月1回開催し、経営方針等の意思決定およびグループ会社の業務執行の管理を行っております。また、取締役の任期は1年としております。監査役会は、3名の監査役で構成され、うち2名は社外監査役が在任しております。監査役は毎月1回の取締役会に出席し取締役会の業務執行に対する監督を行うほか、毎月1回監査役会を開催し、監査の重要事項に関わる協議を行っております。

今般、東京証券取引所が制定したコーポレートガバナンス・コードについては、その趣旨・精神を尊重し、諸原則(基本原則・原則・補充原則)に掲げられた項目への具体的な対応を検討の上、「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」において開示していきます。

② 社外取締役及び社外監査役

当社は社外取締役1名、社外監査役2名を選任しております。当社の社外取締役及び社外監査役は、当社とは一切の人的関係、資金的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役の宇野友三郎氏については、食品業界において経営に携わってきた豊富な経験と幅広い知識から、経営に関する有効な助言を期待し選任しております。

社外監査役の大野千幸氏については、金融及びコーポレートファイナンスに関する知識と企業活動に関する豊富な見識からの経営全般の監視と有効な助言を期待し選任しております。なお、大野千幸氏は親会社である阪神酒販株式会社の監査役を兼任しております。

社外監査役の阿部夏朗氏については、企業経営者として豊富な経験から経営全般の監視と有効な助言を期待し選任しております。

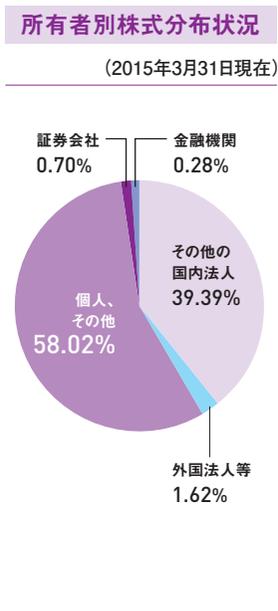
なお、社外取締役の宇野友三郎氏、社外監査役の大野千幸氏、阿部夏朗氏については、独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

当社においては、社外取締役及び社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準または方針はありませんが、東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考に、一般株主と利益相反を生じる恐れがないことを基本的な考え方として選任しております。

PAGE 10 沿革 / 株式情報



株式情報	
(2015年3月31日現在)	
発行可能株式総数	49,500,000株
発行済株式総数	20,226,815株
株主数	12,972名
自己株式	2,400株
発行済株式総数に対する所有株式数の割合	0.01%



大株主の状況
(2015年3月31日現在)

氏名又は名称	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
HSIグローバル株式会社	7,235,379	35.77
田阪 和央	1,596,091	7.89
酒井 信一	684,039	3.38
川上 統一	421,160	2.08
オリエンビルデベロップメント6号株式会社	269,426	1.33
ザ バンク オブ ニューヨーク ー ジャスディック ノントリーティー アカウント (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	240,975	1.19
ワイエスフード株式会社	199,300	0.99
林 浩喜	165,000	0.82
株式会社エイチウィル	145,400	0.72
JAIC-中小企業グローバル支援投資 事業有限責任組合	138,046	0.68
合計	11,094,816	54.85

